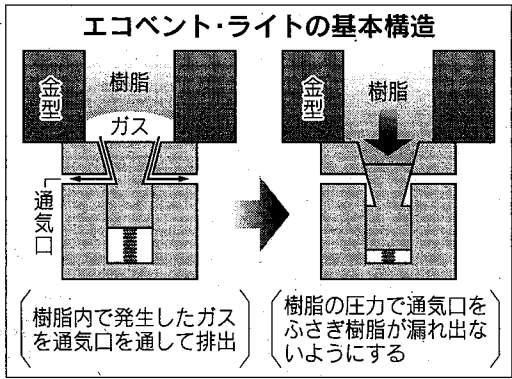


低価格の小型排気部品

樹脂用精密金型の齋藤金型製作所



ガス抜き円滑、5万円
ネット販売も

金型内に樹脂が十分に充填できない「ショート」や「ヨット」などの不良を招きやすい。従来は深さ0.02mm程度の溝を作りガス抜きしてきたが、それでも十分だった。今回開発した部品は「エコベント・ライト」。昨年開発した「エコベント」の姉妹品で、基本構造は同じ。樹脂材料の圧力で通気口となる溝を自動開閉するシャッター構造を採用。溝の深さを0.5mmに広げることによって排気することが可能になった。ライトは幅20mm、高さ28mm、厚み13mmで、エコベントの約3分の2の大きさ。シンプルな

射出成型する際、樹脂から発生するガスを外に排気することが大きな課題だった。ガスが残ると高温になり、成型品の一部を焦がす「ガス焼け」や

構造にして工程数を約4割減らした。価格はエコベントの8万~20万円に引き下ろした。受注生産のエコベントは2週間程度の納期が必要だが、ライトは単一規格で作り置きできる。受注後すぐに納入できる。ネットでも販売する

国内外で分業生産体制を敷く。エコベントは日米英独仏伊のほか中国や韓国、カナダで特許を取得済み。ライトについても出願中だ。納入する自動車部品メーカーから低価格品を求める声が強かったため、今回の開発につながった。

県産材使用、商品と交換

住宅の新増改築 福島県がポイント

福島県は、住宅を新築や増改築する際に県産材を一定量使用すれば、20万円相当(被災者が施主の場合)は30万円相当の農林水産物と交換できるポイントを付与する事業を始める。県産材の利用促進や住宅産業の活性化を図る。

事業名は「森と住まいのエコポイント事業」。対象となるのは県内で4月以降に着工した居住用の住宅で、施工業者の主要な営業所も県内にあることが必要。ポイントを受けるのに必要な県産材の使用量は延べ床面積によって異なり、95平方メートル以上110平方メートル未満の住宅なら6立方メートル以上を主要構造材や間柱に使用すればよいという。

交換できる商品は魚介類や牛肉、果物、木製家具など。国が実施している「木材利用ポイント事業」の交換商品も対象にする方向で調整する。

ポイントの発行申請は8月1日から受け付け、予算を使い切った時点で終了する。制度の詳細は福島県建築総室のホームページに掲載している。

太陽光の売電収入を復興資金に

民間基金、被災3社支援

民間ファンドの「東北共益投資基金」(東京・千代田)は太陽光発電の売電収入を復興資金に回すプロジェクトを支援する。宮城県石巻市で被災企業に設置する太陽光パネル購入資金として300万円を私募債で拠出した。売電収入はパネル設置企業の復興資金に充ててもうろうほか、一部を地域で再建途上の企業に再配分する。

プロジェクトは一般社団法人「被災事業所復興支援室」(石巻市)が手掛ける。まずは水道設備、石材、水産加工関連の被災企業3社が参加。再建室が回収し、被災事業者を支援するNPOなどに

同基金は2011年に発足。災害支援団体「シビックフォース」などの協力で資金調達し、被災地の中小企業などに10件の投資を履行した。

熱・振動など活用し発電を

秋田の産学官 研究会

熱や振動、圧力などの関連産業を集積しようとする研究会は電子部品メーカーを中心に企業48社と秋田大学、秋田県産業技術センター、秋田県などが参加した。

研究会は電子部品メーカーを中心に企業48社と秋田大学、秋田県産業技術センター、秋田県などが参加した。

登場

東北経済産業局長 守本 憲弘氏(52)

2日の就任会見では「復興の加速と東北経済全体の活性化に貢献したい」と抱負を述べた。復興ではきめ細かな対応を肝に銘じる。「企業や地域ごとに復興の進捗や抱える問題は異なる。状況

実務家、復興きめ細かく

東北経済産業局長 守本 憲弘氏(52)

2日の就任会見では「復興の加速と東北経済全体の活性化に貢献したい」と抱負を述べた。復興ではきめ細かな対応を肝に銘じる。「企業や地域ごとに復興の進捗や抱える問題は異なる。状況

教育ローン6%減

昨年度東北 授業料減免が影響

日本公庫

日本政策金融公庫が、昨年度東北の授業料減免が影響を受けたことにより、教育ローンの融資実績が前年度比で6%減の121億円に減ったことが明らかになった。

東北農政局長に佐々木氏を起用

農林水産省は2日付で、東北農政局長に佐々木康雄・官房審議官を起用する人事を発令した。前局長の五十嵐大之氏は同日付で辞職した。

佐々木 康雄氏(ささき かつゆき) 81年(昭和56年)東大農卒、農林水産省入省。

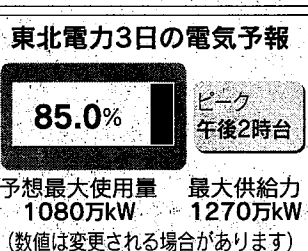
津波被害越え野菜作り

農業編

キリンビールが1億5000万円を支援して今年度始まった農業塾。東日本大

では、出荷先からの支援で細谷の強みは自他共に認める。建てる風車は回る。生産するものはトマト、ホウレンソウ

出せるよう手伝う。東官民交流で2年8カ月の京と福島を頻りに行き来



40th ANNIVERSARY

な対応力を

13:00~13:05 主催者挨拶

13:05~13:45 基調講演

「強靱な日本とイノベーション」

一橋大学 イノベーション研究センター 教授
プレトリア大学ビジネススクール GIBS日本研究センター 所長 米倉 誠一郎氏

13:45~14:25 講演 1

「日本と世界のCEOの比較から見たグローバル競争に必要な経営者の視点」